

スポーツ健康学部

【2024 年度大学評価総評】

スポーツ健康学部の自己点検・評価は適切に行われていると評価できる。新カリキュラムの妥当性確認が進められており、新シラバスへの移行の効果検証が行われている点は評価できる。学習成果については、卒業論文提出者が減少しており、提出率が 32%という状況が報告されており、研究心向上のための組織的な学習支援を継続的に進めていただきたい。オンライン授業の積極的な活用へのニーズ把握など学生からの意見を参考にするため実施する授業改善アンケートなどを今後も効果的に活用されることを期待する。また、学習成果に関する習熟度テスト活用も評価できる点である。英語能力に関して、ELPA の平均点が若干上がってはいるものの、引き続き向上のための具体的な対応が必要であろう。

各種入試制度における入学者数に関しては、転編入の導入や自己推薦入試の改善により入学者数が伸びているものの、指定校推薦や留学生入試の入学者数が伸びていないといった現状に関して、入試制度検討委員会での継続的な検討が望まれる。学生支援についても、初年次教育科目である「スポーツ健康学入門」の一コマをキャリアセンターからの説明に充てるなど、初年次からキャリアセンターと連携して就職への意識を高めていることは評価できる。

社会貢献としては、関連する科目を設置したり、ソーシャルイノベーションセンターのプロジェクトに学生が参加するなどの積極的な取り組みが行われている。理論と実践の視点から開講されている科目や地域交流の一環として授業外で実施されているものは学生にとっても魅力的なものと思われる。2023 年度の重点目標として掲げた人事に関しては、女性教員が採用されており、女性教員が少ない部門において女性の採用に至ったことは、学生にとってもプラスの効果が期待でき、高く評価したい。なお、個々の教員による研究活動に関して、学部の改組等を踏まえた検討を行うこととされており、今後一層の取り組みが進むことを期待する。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認	
2024 年度自己点検・評価シートに記載された I 現状分析を確認	すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/rinen/	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	
スポーツ健康学部・教授会規程	

基準3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/policy/ 『履修の手引き』 pp. 2-3	

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
『履修の手引き』 pp. 4-20、 法政大学シラバス Hosei University Web Syllabus	

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい

4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい
【根拠資料】	
『履修の手引き』、授業改善アンケート結果、学生モニター結果、 法政大学シラバス Hosei University Web Syllabus	

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学シラバス Hosei University Web Syllabus 、2023年度スポーツ健康学部第18回教授会資料	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Halo）を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
①スポーツ健康学部第12回教授会において、授業改善アンケート（春学期）の結果を共有した。 ②2024年度新入生ガイダンス時に、入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果について、学部全専任教員および新入生に提示した。 ③スポーツ健康学部第15回教授会において、学修成果可視化システム（Halo）の所属学生検索の機能拡充について全専任教員で確認した。	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/sports/shokai/policy/ 、学部パンフレット、学部紹介ビデオ	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
入学センター資料（入学者数）	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
学部教授会規程、専任教員・担当授業科目表（事務課保存）	

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ健康学部専任教員の任用に関する基準 ・スポーツ健康学部教授・准教授への昇格に関する基準 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
法政大学シラバス Hosei University Web Syllabus 、『履修の手引き』p.69	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
『履修の手引き』 pp. 33-34	

基準9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
「2023 年度中期目標・年度目標達成状況報告書（社会連携・社会貢献）」	

基準10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023 年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023 年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>スポーツ健康学部の自己点検・評価は適切に行われていると評価できる。教育課程、学習成果については、各項目ごとに成果を算出し、前年度との比較で確実に成果を上げていることが分かる。カリキュラム改編、入試経路の多様化など、さまざまな努力を重ね、着実に学部の運営がなされていることを高く評価したい。特に、資格カリキュラムの見直しに合わせたシラバスの改定作業などを適宜進めている点は妥当な対応と考えられる。また、専門演習履修者割合の増加など、成果と考えられる点が多々ある。コロナ禍を経て、これらの取り組みが今後も着実に進められていくものと考えられよう。なお、学生モニターに対するインタビュー結果ならびに、2022 年度以降の新入生を 4 年間コホートとして追跡するといった取り組みは問題点の析出に有効な対策と考えられる。これらの取り組みが着実にされるならば、学生の満足度がさらに高まるものといえよう。</p> <p>なお、英語力に関して 1 年次に入学後 ELPA の平均値が下がっている点について、質保証委員会からも重大な問題との指摘がある。この点について、英語学習に対する学生の動機付けを短期留学や講演会の形で進めているとのことだが、継続的な推移を見守る必要がある。本件について学部教授会では、講演会開催以外にも、様々なアイデアが具体的に議論されているとのことであり、今後の漸進的な成果を期待したい。</p> <p>また、スポーツによる健康増進のまちづくりへの貢献という点では、都心キャンパスに比べて通常は不利とされる多摩キャンパスの立地環境を、本学部は逆に活かせる強みを持っていると考えられる。多摩キャンパスの再構築計画に即して、この点で本学部の教員・学生ともに地域貢献の実績を少しずつ重ねていけるポテンシャルを有しており、今後期待が持てる。</p>
<p>【2023 年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>新カリキュラムを編成して、シラバスチェック、カリキュラムマップ・ツリー、ナンバリングの妥当性を確認し、2024 年度からスタートさせている。学習成果の観点からは、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修者数の割合はこれまでと比べて大きな変化は無いが、卒業論文提出者数の割合は減少しており、研究心を</p>

高めるための組織的な取り組みが求められる。学生モニターによって、対面式による授業形態が効果的であると捉えられていることが判明した。実験・実習科目が比較的多い学部の特性でもあるが、特にコロナ禍では学生が他者とのコミュニケーションを欲していたことがうかがえた。前年度における英語能力テスト (ELPA) については、入学前よりも1年次終了時の得点が下がったことが問題視されたが、2023年度では、入学前が平均570点であったのに対し、1年次終了時は平均577点と若干であるが上回った。今後も継続して様子を見ていく必要がある。また、前年度から入試制度検討委員会を設置し、転編入の導入、自己推薦入試の改善を図ったことで一定の入学者数が確保できた(学年定員185名のところ、2024年度入学者188名)。ただし、指定校推薦については入学者数が伸びておらず今年度に校数を増やす予定である。社会貢献という点では、多摩キャンパスにおける地域交流の一環として「ソーシャルイノベーションセンター」の「スポーツブランディングラボ」に約30名の本学部生が協力した。今後も学生の積極的参加を促したい。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー(学習成果を把握(測定)する方法)は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	S (さらに改善した又は新たに取組んだ)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
2024年度より新カリキュラムの運用を開始するため、学習成果を慎重に把握していく。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高める	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)

ための工夫をしていますか。	
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。	

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	B (更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
個々の教員による研究活動は従来と変化は無いとみられるが、多摩キャンパスの活性化へ向けて数年後にスポーツ健康学部も改組・定員増が想定されるため、組織としてのよりよい在り方について、今後も検討を続けていく。		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	2018年度に始まったカリキュラムが2021年度に完成年度を迎えたため、授業科目のスリム化計画の検討とともに、カリキュラムの改善に向けて、見直しを図る。見直しに当たっては、学部独自資格科目などへの対応や総合科目、専門科目の配置などについて、

	優れた人材の輩出を基本としながら進める。なお、(公財)日本スポーツ協会の公認資格アスレティックトレーナー養成のためのカリキュラム見直しが同時期に予定されており、本学部のカリキュラム編成にも影響が少なくない1ことから、改訂作業は2022年度から2年間かけ、諸条件を整えたのち2024年度から改訂されたカリキュラムを実施する予定である。また、卒業研究の履修を通して創造性教育を推進する。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度に引き続き、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修を促すため、学生による専門演習のガイダンスを継続して実施する。 ・質保証委員会によるシラバスチェックを通して内容の妥当性を検証する。 ・カリキュラムの改訂作業を進める。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会によるシラバスチェックの実施 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移 ・卒業研究数の推移 ・新カリキュラムの完成 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・改訂した新カリキュラムに対して、質保証委員会および執行部によるシラバスチェックを行い、カリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリングも含めて妥当性を確認した。 ・2023年度の専門演習ⅠおよびⅡの在籍者数あたりの履修者数は前年度に比べて概ね変化は無かった(Ⅰの履修者数は152名/186名=81.7%で前年比2.8%でアップ、Ⅱの履修者は137名/187名=73.3%で前年比0.3%マイナス)。また、専門演習Ⅲの履修者数は57名で、そのうち卒業論文提出者数は44名であった。在籍者数(178名)あたりの卒業論文提出者数は32.0%であり、前年度の39.5%から減少した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、(公財)日本スポーツ協会の公認資格アスレティックトレーナー養成のためのカリキュラム見直しに伴い、主にヘルスデザイン・コースのカリキュラム改訂を行った。また、それ以外にも各コースの授業科目を見直し、若干であるがスリム化が図られた。2024年度は改訂カリキュラムを実行しつつ、その検証を行っていく。 ・専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修者数は、例年と比べて大きな変化は無く、学生に対するガイダンス等による周知の仕方により一定の効果はあるとみなせる。一方で、専門演習Ⅲの履修者に対する卒業論文提出者数の割合は前年比から減少した。これについて、初年次教育の段階から卒業論文の意義を伝える機会をつくり、専門演習Ⅰ・Ⅱ担当の各教員がより積極的に論文作成を支援していく必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	新カリキュラムの編成・導入に伴い、カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリー、各科目のナンバリングを整備するとともに、シラバス・チェックを行ったことは高く評価できる。専門演習Ⅰ・Ⅱの履修者数は継続的に多いが、専門演習Ⅲの履修者数と卒業研究の提出者数が減少している。2023年度の4年生はCOVID-19のパンデミックが起こった2020年度に入学した学生たちであるため、コロナ禍の学びが集大成である卒業研究に影響した可能性を否定できないが、卒業論文の提出者数が減少している事実が変わりなく、改善する必要がある。
	改善のための提言	次年度は新カリキュラムと旧カリキュラムが同時に進行するため、教育課程の適切な運営が求められる。専門演習Ⅲと卒業研究に取り組む学生を増やすため、1、2、3年生の専門的な学びに対するモチベーションを向上させる工夫が必要である。卒業研究の抄録集の配布、卒業研究の意義の説明、発表会への参加の呼びかけなどを、これまで以上に丁寧に行うべきだろう。アフターコロナとなり、対面での演習が可能になったことから、ディスカッションや深い思考を伴う能動的な学習の重要性を学生たちに伝えることが大切である。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	スポーツ健康学部は学部の性格上、実技科目が多いが、オンライン授業であっても対応できるよう取り組むほか、アクティブラーニングなど学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む。	

年度目標	2023年度からは全学的にも「対面授業を原則とする」方向にあるので、対面によるアクティブラーニングにより学習意欲を高めることを目標とする。一方で、オンラインも適宜活用する。	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・授業相互参観数 ・授業改善アンケート結果（特に「問1」） ・学生モニター制度による聞き取り 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケート（2023年度・春学期）の「問1」（この授業では、積極的な工夫がされていたか。例えば、熱意、授業方法、板書法、スクリーンの見やすさ、話し方、課題や主体的な学びへの促しなど、5段階評価）の本学部生の結果では、総計で78.5%が「大変工夫していた」「工夫していた」と回答した。 ・教員による授業相互参観数は「8」とあまり芳しく無かったが、内容的に問題は見当たらない。 ・学生モニター制度によるヒヤリングを3コース各々から選出した3名に対して実施した。授業形態については「このまま対面重視の方向で進めてほしい」という意見で一致しており、対面によって教員と学生のコミュニケーションがより濃密となり、その教育効果が出ていると判断できる。一方で、完全な講義形式では「オンライン/オンデマンドも積極的に使用してほしい」との意見も出された。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートの結果から多少注目されるのは、講義（座学）系の大規模授業（100人～200人程度）に対して「あまり工夫がなされていない」と回答している学生が若干存在する（3.7%）という点である。本学部では少人数の実技・実習・演習科目が多いので、それらに比べれば大規模授業では学生に与えるインパクトが弱い傾向があるのかもしれない。学生モニターでは講義形式において「オンライン/オンデマンドも積極的に使用してほしい」との意見があり、それらの活用方法についても今後さらに工夫・改善していく必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>授業改善アンケートにおいて、「教員の工夫」が学生たちから高く評価されており、コロナ禍を経て、学部の授業の質が向上したようである。一方で、授業改善アンケートはそもそも学生たちの回答率が低い授業が少なくなく、この点は改善すべきである。教員相互の授業参観は一部の教員の実施に限られているようであり、学部全体の取り組みへと発展させることが求められる。学生モニター制度は3コースからバランス良く学生を募集して実施し、その結果を学部教育に反映していることは高く評価できる。</p>
改善のための提言	<p>教員相互の授業参観については、少なくとも、オムニバスの授業（スポーツ健康学入門など）で教員が既に相互に参観しているものは参観シートの提出を徹底することで実施率を高めることができる。授業改善アンケートについては、学生の回答率を高める必要がある。そのためにはシラバスにおいて、アンケート結果を教員がどのように生かしているかを示すだけでなく、授業時やアンケートの実施時においても口頭でそのような説明を行うことが有効と考えられる。</p>	
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	学習成果は、状況によりオンライン授業での測定も必要であり、今後授業形態の多様化を踏まえ、複数の観点から測定・評価していく。	
年度目標	<p>2022年度から引き続き、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「習熟度テスト」により、学習成果の改善を図る。 ・昨年度から導入したELPAによるテストの平均値が2年次で1年次のそれを上回るようにする。 ・累積GPAにより評価する。 ・授業改善アンケートを実施する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度テスト結果 ・2年次のELPAの平均値 ・累積GPA 	

	・授業改善アンケート結果	
年度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度の習熟度テストは2023年度末に実施するため、現時点で成績評価はできない。ちなみに2022年度における1年生の成績は平均62点（100点満点）であり、過去数年間の1年生の成績と大きな相違は無かった（2022年度においてテスト内容を見直しているため過去との正確な比較はできないことを断っておく）。今後、2023年度末に実施するテストにより、2022年度に1年生であった学生の2年生時の成績が判明するので、直接的な比較が可能となる。 ・昨年度における英語能力テスト（ELPA）については、入学前よりも1年次終了時の得点が下がったことが問題視されたが、2023年度では、入学前が平均570点であったのに対し、1年次終了時は平均577点と若干であるが上回った。 ・2023年度の累積GPAについては、秋学期を終えた段階で4年生2.67、3年生2.60、2年生2.45、1年生2.42であった。昨年度は、4年生2.44、3年生2.50、2年生2.64、1年生2.45であったので、2023年度の4年生・3年生は昨年度を上回り、2年生・1年生は昨年度を下回った。 ・授業改善アンケート（2023年度・春学期）の「問3」（この授業内容を理解できましたか、5段階評価）の本学部の結果では、総計で71.2%が「大変理解できた」「理解できた」と回答した。また、「問4」（この授業を履修してよかったですか、5段階評価）の本学部の結果では、総計で76.2%が「大変よかった」「よかった」と回答した。
	改善策	春学期終了時にFDを兼ねて、本学部の英語授業担当教員を交えた「学生の英語能力を高める方法の検討会」を開催した。そこでは、短期・長期の海外留学やIGESSのように英語のみの授業への積極参加、また英語が得意な学生をリーダーとしたフリースタイルの場の設定等のアイデアが出されたが、今後も学生のいわゆる外向き志向を高め、英語能力のアップを図っていく必要がある。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	毎年、コース毎に学年別で実施している習熟度テストは素晴らしい取り組みである。今後も適切かつ継続的な実施が望まれる。英語力については、1年終了時のELPAの得点が入学前の得点よりも若干（7点）伸びたようだが、ほぼ等しい（変化なし）と捉えた方が正確だろう。GPAは学年が上がるにつれて高くなる傾向があり、スポーツ健康学部の専門的な学びと学習成果の向上が関係しているものと考えられる。授業改善アンケートの結果については、理解度と満足度に関する項目の評価が高いことから、学部教育が学生たちの知識の獲得と専門性の向上にしっかりと結びつくだけでなく、彼らの間で充実した学びが行われていることが、数値から読み取れる。
	改善のための提言	英語科目はもとより、それ以外の科目（たとえばグローバルオープン科目など）においても学生の英語力を高めるための環境や仕組みを整える必要がある。また、コロナ禍の影響により、以前と比べ、大学に通うことが難しくなった学生もおり、彼らは低GPAに陥りがちである。こうした学生への支援を適切に行うことも大切である。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度に準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力するとともに質の確保に努める。留学生の募集人数の確保によりSGUを推進するとともに、指定校制度を活用した学生の受け入れを推進する。
	年度目標	一般入試、自己推薦、指定校、留学生、転編入の各制度により多様な学生の受入を推進して定員（185名）を満たす。また、引き続き入試制度検討部会を設置し、特に自己推薦、指定校、留学生の制度について検討を深める。
達成指標	各入試制度における入学者数	
年 度	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A

末 報 告	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度の入学人数は189名（定員185名）となり、超過率は1.02%で定員を充足した。 ・転編入試験では、4名の募集枠に対し、5名が合格した。 ・2023年度入試から指定校の枠を15校→30校と増やしたが、入学人数は募集10名に対し3名にとどまった。 ・自己推薦については20名の枠に対し、22名が合格した。 ・留学生は5名の枠に対し、2名の合格にとどまった。ちなみに、2022年度合格者は1名、2023年度も2名であった。
	改善策	転編入、自己推薦入試は順当であるが、指定校推薦、留学生入試が伸びていない。指定校推薦については、次年度入試からさらに学校数を増やす予定である。留学生入試については、試験実施時に受験者が減ったが、これは全学的傾向であり、実施時期を前倒しにするなどの改善が求められる。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	転編入や自己推薦入試が入学経路として順当に伸びているのは選ばれる学部のための取り組みとして評価できる。一方、指定校や留学生入試などの取り組みは、多様な学生を受け入れるのに有効であるため、引き続き粘り強く取んでいく必要があると考えられる。
	改善のための提言	指定校制度については、対象校をさらに増やすために、引き続き入学した学生の状況やその他の情報収集を継続する必要がある。留学生入試については、他大学の動向も踏まえながら入試時期自体の前倒しを含め新たな取り組みを考えることも必要である
評価基準	教員・教員組織	
中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保するとともに、各コース・科目への偏りのない人員配置に心がける。	
年度目標	2023年度においてコーチングコースの教員1名、およびビジネスコースの教員1名が退職を迎えるため、2024年度へ向けて人事委員会を立ち上げ、各コースの教員（計2名）を採用する。	
達成指標	2024年度へ向けて学部専任教員数（計17名）を確保する。	
年 度 末 報 告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コーチングコースの教員1名、およびビジネスコースの教員1名を新規採用することができ、2024年度へ向けて規定教員数を確保した。なお、コーチングコース1名の採用については、2023年度の重点目標に設定したとおり、40歳以下の若手であり、かつ大学院博士後期課程を担当できる教員である。また、ビジネスコース1名については、女性であり、女性教員の学部にも占める割合は現時点で17.7%（3名/17名）となっている。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
所見	学部の教育水準を保つための規定教員数が確保されている。特に本年度の教員採用において、2名の専任教員を採用、コーチングコースでは、40歳以下の若手教員、ビジネスコースで女性の教員を充当し、偏りのない教員組織の構築がなされている。	
改善のための提言	次年度も退職予定者がおり、人事案件が見込まれる。本年度の採用において、再募集が生じたことから、早めに人事委員会を立ち上げ、補充人事に取り組んでいくことが望ましい。	
評価基準	学生支援	
中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・相談窓口の明確化 ・就職支援のため、スポーツ健康学入門の1コマに多摩キャリアセンターによる説明等の枠を設ける 	

達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・相談窓口の明確化 ・就職支援のため、キャリアセンターによる説明等の実施 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムについては例年通り、全学部生へ配布する「2023年度・スポーツ健康学部・履修の手引き」において明記し、学生が各教員に対して相談できるようにした。 ・就職支援について、初年次教育の一環である「スポーツ健康学入門」の一コマにキャリアセンターによる説明を導入した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	学生の支援に対する体制づくりは、教員のオフィスタイムの明確化、相談窓口の明確化および就職支援によって適切に整備されている。特に、就職支援については、「スポーツ健康学入門」に多摩キャリアセンターによる枠を設け、初年次から就職への意識を高めている。また、学生モニター制度も引き続き実施されており、年度の目標は達成されている。
改善のための提言	教員のオフィスアワーに直接相談する機会のほかに、対面ではなくオンライン上で、教員または第三者に容易に質問できる仕組みをつくることについては、引き続き検討されたい。	
評価基準	社会連携・社会貢献	
中期目標	社会との繋がりや社会貢献を意識した教育の推進。	
年度目標	引き続き、社会貢献・社会連携に関わる教育の場を提供するとともに内容の充実を図る。	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・社会連携に関わる、 ・授業科目数と履修者数 ・授業内容（専門演習を含む） 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	社会貢献・社会連携に関わる教育としては、理論と実践の視点から、授業内容を踏まえスポーツリクリエーション論、スポーツ社会学、スポーツジャーナリズム論（放送）、スポーツジャーナリズム論（新聞）、スポーツ政策論、健康増進施設実習、地域スポーツ経営論の7科目である。受講者はそれぞれ125、191、42、100、54、5、134名であり、昨年度と大きな差はなかった。なお、授業以外であるが、多摩キャンパスにおける地域交流の一環として「ソーシャルイノベーションセンター」の「スポーツブランディングラボ」に約30名の本学部生が協力した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	社会貢献・社会連携に関わる教育としては学部内に7科目配置し、それぞれの科目の受講者数が一定数の水準にあり評価の観点から達成水準を満たしていると考えられる。授業以外での社会貢献・社会連携の取り組みである「ソーシャルイノベーションセンター」の「スポーツブランディングラボ」にも本学部生が協力したことは評価できる。
改善のための提言	社会貢献・社会連携に関わる教育の場として指標に上げている学部科目自体の各コースによる偏りが無いのか、コースごとの科目履修者数の検討も必要である。「ソーシャルイノベーションセンター」の取り組みについては多摩キャンパスにおける社会貢献・社会連携活動の一環であるので年度目標・達成指標に加えてもいいのではないかと考えられる。	
<p>【重点目標】 本学部（スポーツ健康学科）は、①ヘルスデザインコース、②スポーツコーチングコース、③スポーツビジネスコースの3コースから成っており、2023年度における各コースの教員数は、①は6名、②は6</p>		

名、③は5名である。2023年度終了時に、②の教員1名、および③の教員1名が退職を迎えるため、人事委員会を立ち上げ、2024年度へ向けて当該コースの教員（計2名）を採用する。

【目標を達成するための施策等】

採用人事に際しては、当該の各コースにおける学問としての社会的ニーズとともに、現有教員の専門性とのバランスを考慮する必要がある。また、2023年度における教員数17名の年齢構成は、61～70歳が5名（29.4%）、51～60歳が6名（35.3%）、41～50歳が5名（29.4%）、31～40歳が1名（5.8%）と、50歳以上が約65%を占めており、学部における今後の教育等の充実のためにはなるべく若手教員（40歳以下）の採用が求められる。加えて、大学院博士後期課程設置（2021年度から開設）の際に文科省より「担当が高齢化している」との指摘を受けており、研究科との関係においても年齢に配慮すべきところである。

【年度目標達成状況総括】

2023年度の重点目標に掲げた人事については、若手教員（35歳以下）1名の採用、および女性教員1名の採用が達成できた。新カリキュラムを編成し、シラバスチェック、カリキュラムマップ・ツリー、ナンバリングの妥当性を確認した。専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修者数の割合はこれまでと比べて大きな変化は無いが、卒業論文提出者数の割合は減少しており、研究心を高めるための組織的な取り組みが今後求められる。授業改善アンケート結果からは授業方法や授業に対する理解度について大きな問題は認められない。学生モニターによって、授業形態として「対面が効果的である」と捉えられていることがわかった。また、前年度から入試制度検討委員会を設置し、転編入の導入、自己推薦入試の改善を図ったことで一定の入学人数が確保できた。ただし、指定校推薦については伸びておらず次年度に校数を増やす予定である。

IV 2024年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	2018年度に始まったカリキュラムが2021年度に完成年度を迎えたため、授業科目のスリム化計画の検討とともに、カリキュラムの改善に向けて、見直しを図る。見直しに当たっては、学部独自資格科目などへの対応や総合科目、専門科目の配置などについて、優れた人材の輩出を基本としながら進める。なお、(公財)日本スポーツ協会の公認資格アスレティックトレーナー養成のためのカリキュラム見直しが同時期に予定されており、本学部のカリキュラム編成にも影響が少なくないことから、改訂作業は2022年度から2年間かけ、諸条件を整えたのち2024年度から改訂されたカリキュラムを実施する予定である。また、卒業研究の履修を通して創造性教育を推進する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度に引き続き、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修を促し、特にⅢにおける卒業論文提出数を増加させる。 今年度からスタートする新カリキュラムの状況を把握する（1年生対象）。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修希望者数の推移 卒業論文数の推移 1年生アンケートの結果
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	実験・実習・実技科目が比較的多い学部であるため、対面式を多く用いる一方で、講義科目等はオンライン・オンデマンド式についてもさらに工夫を重ね、学生の学習意欲を高めるための工夫に取り組む。
年度目標	2023年度以降、全学的にも「対面授業を原則とする」方向にあるので、対面によるアクティブラーニングにより学習意欲を高めることを目標とする。一方で、オンライン・オンデマンドも適宜活用する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 授業相互参観数 授業改善アンケート結果（特に「問1」） 学生モニター制度による聞き取り
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	学習成果は、状況によりオンライン授業での測定も必要であり、今後授業形態の多様化を踏まえ、複数の観点から測定・評価していく。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 「習熟度テスト」により、学習成果の改善を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ELPA によるテストの平均値が2年次で1年次のそれを上回るようにする。 ・累積 GPA により評価する。 ・授業改善アンケートを実施する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度テスト結果 ・2年次の ELPA の平均値 ・累積 GPA ・授業改善アンケート結果
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	アドミッションポリシーにもとづいた入試制度に準拠し、それぞれの入試制度で定められた受け入れ数を満たすよう努力するとともに質の確保に努める。留学生の募集人数の確保により SGU を推進するとともに、指定校制度を活用した学生の受け入れを推進する。
年度目標	一般入試、自己推薦、指定校、留学生、転編入の各経路により多様な学生の受入を推進して定員（185名）を満たす。また、引き続き入試制度検討部会を設置し、特に自己推薦、指定校、留学生の制度について検討を深める。
達成指標	各入試経路における入学者数
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部の教育水準を保つための規定教員数を恒常的に確保するとともに、各コース・科目への偏りのない人員配置に心がける。
年度目標	2024年度においてヘルスデザインコースの教員1名が退職を迎えるため、人事委員会を立ち上げ、採用人事を進める。
達成指標	2025年度へ向けて学部専任教員数（計17名）を確保する。
評価基準	学生支援
中期目標	学生の抱えている悩みや問題を早期発見し解決に導けるよう支援する体制づくりを整備する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・相談窓口の明確化 ・就職支援のため、スポーツ健康学入門の1コマに多摩キャリアセンターによる説明等の枠を設ける。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員のオフィスタイムの明確化 ・相談窓口の明確化 ・就職支援のため、キャリアセンターによる説明等の実施
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	社会との繋がりや社会貢献を意識した教育の推進。
年度目標	引き続き、社会貢献・社会連携に関わる教育の場を提供するとともに内容の充実を図る。
達成指標	社会貢献・社会連携に関わる、 <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目数と履修者数 ・課外活動への参加状況
<p>【重点目標】 学習成果の把握を重点目標とする。特に今年度から1年生を対象としてスタートする新カリキュラムを中心に検討する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 「授業改善アンケート」「学生モニター」等を用いて具体的に把握する。特に新カリキュラムについては「1年生アンケート」の結果を以前の結果や上級生の結果と照合しながら詳細に把握する。</p>	